
いつの間にか船の上で

紫聖

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつの間にか船の上で

【Nコード】

N5989P

【作者名】

紫聖

【あらすじ】

村娘が海賊に拐われた！？

まあ、害されることはなくて良かった。と冷静な村娘と口説き魔の船長のやり取り。

めちやくちや短いです。

疲れた、それしか考えられない。

「つれないね、レディ。」

まあ、この男は一応この海賊団の頭。
つまり船長なわけなんだけど。
困ったのが趣味。

女性を口説くっていう。

まあ、金髪に碧眼で王子様然とした美貌に世の娘たち（こいつが部下に拐わせた）はほだされるんでしょうね。
もちろんあたしは違うけど。

「僕に口説かれて、一時間の間にキス一つ求めてこない女の子は君が初めてなんだけど、そろそろかい？」

まあ、乙女の純情を弄ぶ最低な奴。

「君の薄黄緑色は紫陽花が色づく前のようなだ。きっとその髪は僕の愛に応えて薄桃色に変わ……」「そんなことあり得ませんね。あたしの髪はこれまでずっとこの色でしたし。」

白に限りなく近い自分の髪は気にしている。

「紫陽花は水を恋しがると言っけれど、君は僕を恋し」がることもありませんから」

どうして紫陽花なのかしら。可愛い花だけど。
それに……、

「あたしは向日葵の方が好きですね。」

「どうしてかな？」

「お天道様に真っ直ぐ向かっている気高さと言いますが、なんて言いますか。」

「僕も太陽に向かうことはできるよ。」

「まあ、職業柄無理でしょうね。お天道様に顔向けできるんですか？」

ああ、小さくなっちゃった船長。子供みたい。

「すみません、言い過ぎました。」

ああ、元に戻った船長。

ため息は長め。

だってこの青空の下、夏の空澄の下、大海原の上で聞かされるのは口説き文句。

ああ、なんて暑苦しいの！

（後書き）

コメディかどうか全く自信がない、勢いで書いた作品です（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5989p/>

いつの間にか船の上で

2010年12月30日22時10分発行